

---

# 日常と季節と思考と妄想と

北野 鹿乃子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

日常と季節と思考と妄想と

### 【Nコード】

N0481F

### 【作者名】

北野 鹿乃子

### 【あらすじ】

短歌、第三弾。結構たまってきたので披露させていただきました。タイトル通り現実やら妄想やら入り交じっております。何か感じていただければ幸いです。

なんとなく  
見上げたさきに  
雲ひとつ  
大きく息を  
すいこんでみる

はずかしい  
過去振り返り  
のたうちまわり  
そんな今も  
はずかしい

大丈夫  
その一言を慰めに  
だけどホントに  
大丈夫なの？

やってやる  
いつも言っでは  
いるものの

ひどくなるばかりの  
この現状

空のあお  
草木のみどり  
眩しくて  
思い出すのは  
あの涙雨

木になりたい  
空になりたい  
海にでも  
何でもいいから  
自然とともに

言わなくちゃ  
心に秘める  
この想い  
意気地がなくて  
伝えられない

どんなに強く想っても

言わなくちゃ  
伝えなければ  
無いに等しい

完璧なる  
正直者は  
存在しない  
そう思いつつ  
罪悪感に堪ゆ

降るほどに  
涼しさを増す  
どしゃ降りの  
雨に打たれ  
急ぐ帰り道

雨上がり  
見上げた先の  
七色の  
一瞬の輝きは  
わたしのもの

気が付けば  
触れるか触れない  
そんな位置  
その甘えかた  
ちよつとズルい

自転車の  
外れたチェーン  
繋いだのは  
あなたが自転車  
わたしとあなた

台風の  
日には家族で  
聞いていた  
あの雨漏りの音  
懐かしい

早くなる  
夕日を眺め  
帰る道  
秋の声も  
歌いはじめる

だんだんと  
涼しさを増す  
風感じ  
人恋しいと  
心身泣く

あの頃の  
想いを胸に  
溢れさせ  
気分だけは  
いつでも初恋

なんとなく  
それが私の  
心意気  
つていうほどの  
ものでもないけど

綺麗でも  
歪んでいても  
ありのまま  
表すわたしの





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0481f/>

---

日常と季節と思考と妄想と

2011年1月8日23時17分発行